

陸上運動部部便り

2011年10月号

関東女子駅伝・京大戦・箱根駅伝予選会

目次

1 監督の言葉	1
2 関東女子駅伝	1
2.1 女子駅伝主将の言葉	1
2.2 出場選手の言葉	2
2.3 試合結果	3
3 京大戦	4
3.1 主将の言葉	4
3.2 女子主将の言葉	4
3.3 試合経過	4
3.4 試合結果	12
4 箱根駅伝予選会	15
4.1 長距離チーフの言葉	15
4.2 出場選手の言葉	16
4.3 試合結果	21
5 新主将・新女子主将・新主務・新長距離チーフの言葉	22
5.1 新主将の言葉	22
5.2 新女子主将の言葉	22
5.3 新主務の言葉	22
5.4 新長距離チーフの言葉	22
6 自己記録更新者一覧 2011.9.4~10.15	23
7 2011年度部内5傑 2011.10.15現在	24
8 主務より	25
8.1 応援OB・OG紹介	25
8.2 行事予定	27
8.3 学生幹事の交代	27
8.4 連絡先(慶弔等)	27
8.5 その他	27
9 編集担当より	28

1 監督の言葉

監督 藤田靖浩

箱根駅伝の予選会を持ちましてシーズンの終わりを迎えました。予選会の結果は、順位は25と昨年から1位下がってしまったものの、タイムはコースが立川になってからは最高。目標の本戦出場への道のりはまだまだ長く、東大記録更新を狙っていただけに残念ではありますが、実力はそれなりに発揮することができました。来年は、主力となっていた4年生が卒業する分、1~3年生に大いに成長してもらいたいと思います。

さて今シーズンを振り返ると、六大戦や関東インカレではなかなか結果を残せなかったものの、その後ベストを更新する選手が多く、七大戦ではトラック優勝を達成する事が出来ました。正直に言うと、昨年の四年が卒業した際は来年は大丈夫かな、とやや不安を覚えたのが事実ですが、選手達が予想以上に成長してくれました。一方、一橋戦、京大戦はやや尻すぼみ。昨年も同様に秋シーズンはあまり結果を出す部員がおらず、夏以降の練習の仕方は改めて考えなければいけないと思いました。(いろいろ検討の余地はあると思いますが、自分自身の経験をふまえても、夏以降は細かな試合に合わせず、翌年度を見据えて練習をしていく方がいいのかもしれない。)

また新しいシーズンが始まりますが、引き続き、東京大学陸上運動部を宜しくお願い致します。

2 関東女子駅伝

2.1 女子駅伝主将の言葉

女子駅伝主将 鈴木恵美里

9/25(日)に千葉県印西市千葉ニュータウン周回コースにて、関東大学女子駅伝が行われ、東大女子チームとして出場させていただきました。昨年の反省を活かして、今年は大大会に出場する多くの女子部員も北海道での長距離合宿に参加して走りこみを行い、早期から駅伝

に向けた練習に取り組みました。結果は2時間00分14秒(18位/20校)となり昨年以上の結果を残すことが出来ました。しかし、最終区では繰り上げスタートとなってしまう等、反省点も多くありました。来年の駅伝に向けて、しっかりと目標を立て、さらに良い結果を残すことが出来るように精進して行きたいと思います。多くのOB・OGの皆様が応援に駆けつけてくださったことを、選手一同、心より感謝いたしております。今後とも、ご指導とご声援をよろしくお願いいたします。

2.2 出場選手の言葉

今須 宏美(1年)

1区(4.6km)17分25秒[17位/20人中]

久しぶりの長距離走、そして初めての駅伝大会ということで楽しみにしつつも非常に戸惑いと不安を感じていました。実際、800mを専門種目としており長距離走の練習を本格的に行ったことがなかったため調整に苦しみ、練習ではスタートで飛び出して後半で急激にペースダウンしてしまうなど、レース感覚がつかめないまま本番を迎えてしまいました。それでも先輩方の心強い励ましに勇気づけられ少しでもいい順位で襷をつなごうという強い気持ちでスタートラインに立つことができました。

スタート直後は予想していたよりも全体のペースが遅く感じられ、心に余裕ができました。しかし電機大学構内から出て直線のコースになると集団のペースが上がり始め、ここで無理についていけるだけの体力はないと判断して自分のペースを守った結果、1km手前で既に先頭集団と10mほど差が開いてしまいました。この時点で17位、以降順位を上げることはできませんでした。その後も先頭集団との差は開くばかりでしたが2km付近で集団がほぐれて千葉大学や日本女子体育大学が集団からこぼれたため、これらの大学を見失わないようにしようと思いながら追いかけてきました。3kmを過ぎると日女体のペースが落ちてきたため、これなら抜かせると思い沿道からの声援に力と勇気もらって必死に追いましたが差を詰めこそしたものの抜くことはできませんでした。

今回この駅伝を走る機会を与えていただいたことで、他大学の選手の走りを肌で感じ、自分の力不足や精神的弱さを思い知ることができました。来年はあの先頭集団の中で争いたいと強く思いました。もっともっと自分を磨いて、強くなります。来年は絶対にゴールまで襷をつなぎたいと思います。応援・サポートをしてくださった

方々、とても大きな力をいただきました。本当にありがとうございました。

浜松 由莉(3年)

2区(4.5km)16分06秒[17位/20人中]

二区を走りました中距離3年の浜松です。前年度は1区を走らせていただきましたが、最下位という結果でしたので、今回は少し借りを返すことが出来たかな、という思いです。

今年度は中距離女子チームとして初めて北海道合宿へ参加するなど、駅伝にむけて焦点をしばった夏となりました。それだけに襷が渡らなかつたのは非常に悔しかったです。

来年度はより一層努力していきます。

鈴木 恵美里(4年)

3区(3.3km)15分03秒[19位/20人中]

3区を走りました4年鈴木恵美里です。今シーズンは満足に練習できず、駅伝を走ることに大きな不安がありました。しかし駅伝に向けて練習に励むチームメイトに力をもらい、本番も一人ではないということが何よりも心の支えになっていました。また、走りながら声援が聞こえるたびにもう少しがんばれる、と思い直しました。なんとか走り切りましたが、体力的には限界で、チームにも迷惑をかけてしまいました。昨年に引き続き、2回この大会に出場させていただきましたが、皆様の応援、サポートのおかげで大変貴重な経験をすることができました。中距離を専門とする女子の人数が増えたとはいえ、ぎりぎりの人数調整で臨まなければならない状況には変わりなく、また普段は800mなど駅伝に比べれば短めの距離を専門とする選手もいるため、チームとしてひとつの目標を掲げて駅伝に臨むことに難しさがあると感じました。私はこれで引退しますが、チームとしてさらに記録の向上を目指すことはもちろん、出場する選手同士で十分に話し合い、駅伝の位置づけを明確にして納得したうえで、楽しんで走ってもらいたいと思います。

朝早くから遠いところ、応援ありがとうございました。

杉浦 奈実(3年)

4区(5.8km)23分06秒[19位/20人中]

昨年に引き続き関東大学女子駅伝に出場させて頂けることが決まり、この大会をシーズンのメインに据えて練習してきました。当日は天候も良く、絶好のコンディションでしたが、前半の一人旅により意外に消耗してしまつたのか後半失速してしまい、タイム内容共に満足できないものになってしまいました。何より最終走者に襷が渡らなかつたことは、個人としてもチームとしても真

撃に受け止めなければならないし、来年以降に活かすべくしっかり反省を共有したいと思います。

駅伝に出るにあたって沢山の方にアドバイスや応援をいただきました。本当にありがとうございました。この駅伝で学んだことを次の試合、そして来年の駅伝につなげることで恩返しできればと思います。

立岡 美夏子 (3年)

5区 (4.6km)19分 17秒 [18位/20人中]

昨年に引き続き5区を走りました。昨年は夏に十分な練習が積めず秋に調子を落としてしまい、悔しい結果に終わったので、今年は2週間弱北海道合宿に参加して走り込みを行いました。9月も引き続き良い状態で練習を積むことが出来、駅伝に望むことができました。

しかし、結果は襷を途切れさせてしまうことになり、非常に悔しい、情けない思いです。幸い来年もう一度リベンジすることができるので、少しでも記録が縮められるよう、気持ちを締め直して練習していきたいと思いません。

部員の方々、OBOGの皆様、合宿でお世話になった皆様のサポート無しには、この駅伝を走ることはできませんでした。本当にありがとうございます。結果を出せるチームを目指しますので、これからもご支援よろしくお願い致します。

杉本 南 (2年)

6区 (7.8km)29分 17秒 [17位/20人中]

昨年は襷をつなぐのがやっとで、他校と勝負すらさせてもらえず、最下位に終わりました。今年は襷をつなぐのはもちろん、他校と勝負しに行くこと、千葉大に勝つことを目標としていました。北海道合宿にも参加し、8月から駅伝を意識して練習してきました。昨年よりも3.3kmも長い7.8kmの最長区間を走るとは少し怖かったですが、楽しみでもありました。当日は調子も良く、いい緊張感をもって中継点で襷が来るのを待ちました。しかし先頭が通過するのが早く、15分が経過してしまい、悔しくも繰り上げスタートとなってしまいました。悔しさから落ち着きを無くし、前を行く千葉大を追って行ったら前半はつっこみすぎて4.5km通過が昨年2区を走った時よりも早くなってしまい、後半動かなくなつてたれてしまいました。最後の2kmはきつく、とても長く感じられ、沿道の応援がなければがんばれませんでした。朝早くから応援に来てくれた皆さんに感謝しています。それと同時に、繰り上げの襷を見せることになってしまったのを申し訳なく思っています。チームとして

の弱さ、甘さの表れです。目標を立て直し、来年こそはちゃんと襷をつなぎ、タイムを縮め、他校と勝負していきたいです。

2.3 試合結果

第17回関東大学女子駅伝対校選手権大会

於 印西市千葉ニュータウン周回コース

(6区間 30.6km)(H23.9.25)

総合順位		
順位	大学名	タイム
1	城西大学 A	1時間 39分 36秒 NGR
2	順天堂大学	1時間 40分 46秒
3	白鷗大学	1時間 40分 52秒
4	大東大学	1時間 41分 09秒
5	城西国際大学 A	1時間 41分 51秒
6	玉川大学	1時間 42分 07秒
7	中央大学 A	1時間 42分 49秒
8	東京農業大学 A	1時間 42分 56秒
18	<u>東京大学</u>	2時間 00分 14秒

区間賞			
区間	大学	名前	タイム
1	城西大 A	片貝洋美	14分 58秒
2	大東大	森智香子	13分 56秒 NSR
3	大東大	田山絵理	10分 53秒
4	城西国大	中村萌乃	18分 33秒
5	城西大 A	脇田玲加	15分 33秒
6	中大	篠塚麻衣	25分 08秒

個人順位 (総合記録)[区間記録]			
区間	順位	名前	タイム
東京大学			
1	(17)[17]	今須宏美	17分 25秒
2	(17)[17]	浜松由莉	16分 06秒
3	(19)[17]	鈴木恵美里	15分 03秒
4	(19)[18]	杉浦奈実	23分 06秒
5	(18)[18]	立岡美夏子	19分 17秒
6	(17)[18]	杉本南	29分 17秒

3 京大戦

3.1 主将の言葉

主将 春日慶輝

京大戦が終了しました。結果は歴史的な大差での大敗でした。シーズン最後の対校戦でありながら、いつもご指導ご声援をいただいているOBOGの皆様の期待を裏切る結果になってしまいました。申し訳ありません。ほとんどの種目で1位を京大に奪われるなど主力の不調と実力不足が目立ち、層の厚さでも完全に負けていました。全く結果を残せないまま主将の任期を終えてしまいましたが、OBOGの皆様、チームメイトに支えられてここまでこれたということに感謝しております。来年度も佐々木駿新主将が率いる東京大学陸上運動部に変わらぬご指導ご声援のほどよろしくお願いたします。

3.2 女子主将の言葉

女子主将 鈴木恵美里

今回の京大戦は、事前の予想では両者とも互角で、すべてうまく行けばどうにか接戦に持ち込めるだろうという状況でした。厳しい情勢かと思われましたが、チームのムードはとても熱く、いつにない後輩達の集中力を感じながら当日を迎えました。誰一人勝ちを信じて諦めず、全力で戦い実力は存分に発揮出来たと思います。それでもなお及ばなかったことに、自分たちの力の無さと大きな悔しさを感じました。私はこれで引退となり、女子主将は3年の久保木に引き継ぎとなります。久保木は競技力はもちろん、チーム全体をまとめる力も持ち合わせた選手です。彼女の下で後輩達も伸び伸びと成長してくれることと思います。これからも女子チームへの温かいご声援とご指導をよろしくお願いたします。

3.3 試合経過

トラック

10:00 男子100m 決勝

3レーンに八子(2年)、5レーンに春日(4年)、7レーンに真木(3年)の出場。京大が対校選手を10秒台二人、11秒0台で揃えてくる上、春日と真木が最近故障していたこともあり、厳しい戦いが予想される。雨が降ることも予想された大会当日であったが、天気はなんとか持ちこたえ、ほどよい気温の中号砲

が鳴る。

まずはきれいに横一線である。30m付近から京大勢が徐々に前に出始め、真木は少し遅れ気味になる。春日も中盤の時点では一歩遅れるが、そこからは上位陣に必死に食らいつく。八子は京大の二人が抜け出すなか、春日とともに3位争いを演じる。後半での伸びが期待されたが、段々と京大の2人に差を付けられ、そのまま挽回することはできずにゴールした。春日は11"17の4位、真木は11"32の6位、八子は11"15の3位で、この時の風は+2.0mであった。

主将の言葉にもあったように予想通りの惨敗で非常に残念な結果となった。また、京大のチームが比較的ハイレベルであったとはいえ、春日はベストに近い走りができていれば、十分勝つことのできた試合であり、短距離チーム全体でも調整不足が目立った。しかしそうではあっても八子が春日に初めて先着しベストに近いタイムを出すなど明るいニュースもあった。来期にむけて、3年生はもちろんのこと、1、2年生が力をつけ上級生を脅かすようにならねばこの屈辱をはらすことはできないだろう。

10:05 女子100m 決勝

3レーンに久保木(3年)、5レーンに鈴木(3年)の出場。京大とは七大戦以来の対戦となり、両校とも出場メンバーに変化はない。七大戦では京大は2人とも決勝進出、東大は両人とも予選敗退と京大に大きく差をつけられてしまったが、この京大戦ではホームグラウンドという地の利を生かし、リベンジを果たして欲しい。

久保木はスタートから勢いのよい飛び出しをみせる。京大の釜谷(2年)とのトップ争いになるかと思われたが中盤でやや離され、鈴木にも追い上げられてしまう。しかし京大の2番手からは逃げ切り、13"30の3位でフィニッシュ。鈴木はスタートでやや遅れてしまったが、その後大きな伸びを見せ、2人を抜き去り13"24の2位でフィニッシュ。このとき風は+3.9mであった。

今回のレースは互いの力が拮抗し、非常に見応えのあるものとなった。2人は今季前半に怪我のために走練が積めず、悔しい思いを

したことであろうが、今後は順調に練習を積み、2人が4年となる来年の京大戦ではスコンク勝ちを目指したいものである。

10:15 男子 1500m 決勝

東(4年)、竹内(4年)、吉岡(2年)の出場。出場選手の中では唯一の3分台の記録を持つ東には優勝が期待される一方で、長距離所属でありながら今年度は箱根予選会の出場を断念して1500mにシフトし、先週の記録会で自己ベストを出した竹内にも期待がかかる。吉岡も今年度は順調にベストを更新しており、唯一の中距離パートとして活躍してもらいたいところである。

レースはスタートから混戦となり、東が先頭、吉岡が3番手、竹内が5番手についた。400mの通過は64"で、その後京大勢と前後で入れ替わりながらも集団がばらける事なく二周目を68"で通過。ここから集団のペースは徐々に上がり、吉岡が苦しい表情を見せて少し離れ始めるも何とか持ちこたえ、代わりに京大の3番手が集団から離される。ラスト1周の鐘が鳴り、集団に残った5人のラスト勝負となった。京大の1番手と2番手が前に飛び出してそれを東が必死に追いかける。ラスト300で竹内、ラスト200で吉岡が離され、勝負の行方は東に託された。東の猛スパートにより、ホームストレートで京大の2番手に並びかけるが、抜きさることができぬまま4'04"89の3位でゴール。続いて吉岡が4'07"32の4位でゴールし、竹内はラストで相手に巻き返されて4'10"47の6位でゴール。

結果、このレースでは京大に3点勝ち越されてしまった。敗因としては、長距離のエースである東が二週間後の箱根予選会出場のため1500mに専念して練習を積みなかつた事や、他パートの力を借りなければならない中距離パートの層の薄さなどが考えられる。中距離パートは来年の対校戦でチームの足を引っ張らないためにも、対校でしっかり走る事のできる選手を育成する事が課題である。

10:35 男子 400mH 決勝

1レーンに松原(2年)、3レーンに上松(3年)、5レーンに高木(4年)の出場。天候は晴れて涼しく、走りやすいコンディションであ

る。しかし、レース直前に写真判定の装置に不具合が生じ、スタートが5分以上遅れ、かつ手動での計測になるというトラブルが発生した。0.01秒を争う陸上選手にとって手動での計測はかなりモチベーションを下げるものである。だが東大の3選手には記録より順位にこだわって頑張ってもらいたい。

号砲とともに6名全員がスタート。高木はスタートがうまく決まらず、出遅れてしまう。動きもややかたく周りの選手に差をつけられる。しかし、そこは4年生。200m付近から追い上げていき、最後は順位を一つ上げ57"23の4位でゴールイン。上松はいつも通りリラックス、かつハイスピードの入り。非常に効率の良い走りで、トップに躍り出る。しかし、後半油断したのか、6台目あたりから徐々にスピードが落ちる。これを見た2位の京大の選手がスピードを上げ、9台目過ぎで京大の選手に抜かれ、そのまま55"82の2位でゴールイン。松原はかなり不調であった。スタートからスピードに乗れておらず、ハードリングも悪い。着地でリード足が潰れてしまい、ハードルを越える度に減速してしまう。周りからもおいていかれて、1'01"70の6位でゴールイン。手動での計測とアナウンスされていたが、写真判定の装置がうまく作動したらしく、正式記録は写真判定によって計測された。

他の短距離種目で京大に負け越していたため、ハードルで大量得点を取り、チームに勢いをつけて貰いたかったが、この種目でも負け越してしまった。ハードル陣にとってもチームにとっても、悔しい結果だっただろう。

12:00 男子 400m 決勝

2レーンに小松(4年)、4レーンに大澤(3年)、6レーンに舩島(4年)の出場。小松は院試の影響による不調、大澤と舩島は故障と不安因子があったものの、練習で調子を戻してきており、それぞれに完全復活が期待される。

三者とも号砲と同時にスタート。それぞれにいいスタートを切り、少しずつ加速しつつバックストレートまで進む。しかし次第に実力差が出始め、先頭争いは前評判通り京大の長谷川選手と東大の大澤。小松と舩島は直線で先頭の二人から少しずつ離されていくも、スピードを落とすことなく軽快に進む。第3

コーナーに入り、京大の長谷川選手が一気に前へ出る。負けじと大澤も食らいつくが、追い抜くことができない。舩島は第3コーナー付近から次第にスピードが落ち始めるが、粘りの走りを見せる。三者ともホームストレートで最後の力を振り絞るも順位を上げることはできず、大澤は49"45の2位、小松は50"77の4位、舩島は52"14の6位という結果になった。

大澤は自己ベストに近い記録を出し、怪我からの復活が見て取れる。これからの活躍に期待がもてる。また、小松の出したタイムは自己ベストであり、不調からの回復力には驚きを隠せない。しかしながら、結果としては京大に負け越してしまったため、来年こそは男子400mで勝ち越せるよう、3年の大澤を中心として力をつけてほしい。

12:05 女子800m 決勝

2レーンに今須(1年)、4レーンに鈴木(2年)の出場。持ちタイムでは京大の岩橋が一步抜き出ている状況である。懸念されていた雨は降らず、涼しく良い気候であった。

スタートと同時に岩橋が飛び出す。今須は岩橋に続き、鈴木は京大の2番手である加奈山にびたりとつく。この2つの集団に分かれてバックストレートを通る。岩橋がリードするままレースは進み、400mのラップは今須が67"4、鈴木が76"9であった。そこから岩橋と今須の差は徐々に開いていく。一方後ろの集団で走っていた加奈山はラスト200m付近からのスパートで今須を猛追する。しかし順位は変わらず、加奈山から逃げきった今須は2'26"5の2位でフィニッシュ。鈴木は2'37"4の4位でフィニッシュであった。

この種目で東大は京大に負け越してしまった。しかし今須と鈴木はまだ1,2年生であり、今後の成長に十分期待できる。

12:20 男子4×100mR 決勝

5レーンに八子(2年)-山下(3年)-中原(2年)-真木(3年)の走順で出場。100mでは惜しくも京大にリードを許してしまったが、4継では走力でやや劣るところをバトンパスの正確さでカバーし、粘りの走りで京大に勝利したいところである。

号砲が鳴ると、100mでの好調さをそのままに八子は100mの優勝者、京大の牧川選手に食らいつき、僅差で2走山下へとバトンパス。山下は無難な走りをするも、やはり走力差からリードを許す展開。3走の中原は個人種目で対校戦に出場が叶わなかった分力んだのか若干早出してしまふ。バトンパスはうまくいかず、大きく先行されたままアンカーの真木へバトンが渡る。真木は必死の形相で京大のアンカーを追い上げるも、そのまま逃げ切られてしまい、2位でフィニッシュ。このとき記録は42"69であった。走力、バトン技術どちらでも京大のほうが一枚も二枚も上手であり、この大会の短距離の不振を表す象徴のようなレースになってしまった。

来年は今回走ったメンバーは全員残り、さらに春日も残ることとなるので多くの戦力が残ったまま来年以降の試合を戦うことになる。しかし、今のままでは京大に勝つのは到底難しく、各々の意識の改革が必要になってくる。

12:30 男子5000mW 決勝

瀧川(3年)、近藤(2年)の出場。競歩パートの堀田(2年)が京大戦の競歩パートの展望を陸上運動部のブログで語るに当たり、「無難に歩いて無難に勝ってください」と締めくくっていたように、この種目は東大の圧勝が予想されていた。競技時間の1時間ほど前から日差しが急に強くなり、若干暑さを感じる中でのレースとなった。

スタート直後から、先頭に瀧川、そのすぐ後ろに近藤と京大の永田が続き、京大の西田が大きく離されるという展開になった。この形勢が崩れないまま瀧川と近藤は1000mを4'31"、2000mを9'08"で通過。2200m付近で永田が遅れ始め、ここから瀧川と近藤の二人旅となった。二人は3000mを13'43"で通過。永田を13秒ほど突き放し、ワンツーフイニッシュ体勢に入った。4000mを18'20"で通過、永田に32秒差をつけ、東大のワンツウが確定した。ここまでで3つの注意が出ていた近藤は、フォームに関する不安から審判を気にしすぎてラスト1周をうまく上げられなかったものの、瀧川を抜いて23'01"7の1位でゴール。瀧川はラスト1000mのペースを少し落としてしまい、23'06"7の2位でゴール

した。展望通りの「無難な」勝利であった。

両者とも対校選手としての役割を果たしたわけだが、この結果に満足せず、自身のフォームに納得のいかない点を見つけ、更なる競技力の向上を目指している。今回の経験を今後にかすことで、ますます強い競歩パートになることができるであろう。

13:10 女子 400m 決勝

3レーンに岩上(3年)、5レーンに今須(1年)の出場。東大は主力不在の一方、京大は対校選手が2人とも60秒台の申請記録であり、記録ではかなり劣る。しかし地元での開催ということで、地の利を活かしていい勝負には持ち込みたいものである。

号砲とともに岩上、今須がスタート。しかしやはり京大の2選手は速かった。今須は京大の2番手の選手を必死に追いかけるも、じりじり離され、ラストの直線に入るまでかなりの差をつけられてしまう。結局最後まで差は縮まらず、1'04"9の3位でフィニッシュ。岩上は本職ではない上、本調子でないこともあり、3人から大きく離されてしまう。それでも最後まで懸命に走り抜き、1'15"0の4位となった。

しかし完走して1点を東大に加えたことは意味がある。この7種目で東大に3点、京大に7点が加算された。

結局申請記録順の結果となってしまった。今回のように主力選手が少し怪我をするだけで全然勝負が出来なくなる現状は東大の層の薄さを露呈しているだろう。しかしながら、今須は申請タイムを大きく上回る記録を出しており、岩上も本職ではないながらも完走して東大に一点をもたらしたことは評価出来る。今後も練習を重ね、さらに層の厚いチームを作りたいものである。

13:15 男子 800m 決勝

須田(6年)、原(2年)に加え、今回から鉄門より入部の高森(4年)が出場。実力のある彼の登用でチーム力に磨きがかかる。

スタート後、須田が積極的に攻め、先頭に立つ。高森は少し抑え気味に入る。原は中盤を狙う。200m付近で須田は3番目に落ち、高森は4番目に上がり、原も5番目に上がる。そのまま膠着状態で400mを通過。先頭は60

秒前後で通過と、スローペースなだけに、集団からの脱落者はゼロ。原は6番目に下がる。そのままの順位で500m通過。600mの通過に須田が落ち、それと同時に京大の3人組が先頭に出てラストスパート。後ろ3人の東大の集団と離れようとするが、700mあたりで高森もスパート、そのまま2人かわし、先頭に立とうとするが、先頭の京大の大川に惜しいところで競り負け2位。続く京大2人の後、須田が5位、原は6位となった。タイムは高森が1'56"6、須田が1'59"3、原は2'02"7であった。

今回は須田が久しぶりの1分台を出し、原もまずまずのタイム。しかし、底力のある京大の3人に敵わなかった。そんな中、高森は実力通りの力を発揮できたであろう。新たに高森を迎えた新チームで中距離パートのレベルが上がって行くことが期待される。

13:45 男子 200m 決勝

2レーンに真木(3年)、4レーンに山下(3年)、6レーンに山田(1年)の出場。春日、大澤といった主力選手が怪我で欠場しているため厳しいレース展開が予想されるが、1点でも多く取りにいった欲しい。

ピストルの合図と共に一斉に走り始める。真木はカーブ始まりでは前についていくが、やはり脚の痛みがあるのか徐々に京大の2人に置いていかれる。ラスト粘るも順位は変わらずそのまま22"8の3位でゴール。このとき風は-2.3mであった。山下も前半は粘り強く京大の選手についていくが、カーブを抜けるあたりでは遅れをとってしまい4位争いに。順位をあげたいところだが疲労のためなかなかあがらず最後は山田に抜かれ、23"2の6位でフィニッシュ。山田はスタートしてから一つ内側の京大の選手に詰められるといった苦しい出だしとなる。そこでもなんとか喰らいつこうと走るが直線では4位争いに。しかし最後まで京大の選手を抜ききれず、23"2の5位に終わった。

結果は残念ながら負け越しであった。狙った大会にむけて怪我をせず練習を積み重ねることが大切だと痛感するレースであった。しかし1年が対校に出るなど若い力があるのでそ

の力をこの先伸ばして行くことに期待したい。

14:20 男子 110mH 決勝

2レーンに谷口(3年)、4レーンに上松(3年)、6レーンに川原(2年)の出場。持ちタイムを見る限り東大有利であり、上位独占も期待される種目であった。

3選手ともスタートはまずまず。3レーンの京大の選手がややリードを奪う。4レーンの上松が競り合い、1位争いを演じる。中盤まではリードされるものの、6台目以降並びかけ、最終ハードルの時点で逆転する。最後まで力を緩めず、そのまま15"6の1位でゴール。一方、6レーンの川原は、序盤からトップの2人からはやや遅れ、5レーンの京大の選手と3位争いを演じる。終盤まで拮抗した勝負を見せるが、最後はやや疲れ、15"9の4位でゴール。2レーンの谷口は、3台目のハードルの着地でバランスを崩し、大きく遅れてしまう。そのままリズムを立て直すことはできず、17"1の6位でゴール。このレースの風は±0.0であった。

レースの結果、戦前の予想に反し、得点で京大に負けてしまった。悔やまれる結果ではあるが、今後のレースに向けて、ますます精進しようという気持ちになるレースとなったのではないだろうか。今後の活躍を期待したい。

14:30 女子 3000m 決勝

浜松(3年)、杉本(2年)の出場。浜松は800mに出ることが多かったが、京大のエース岩橋が2レース目となる3000mの方が勝機ありということでエントリー。一方杉本は前週の駅伝で最長区間を任されたスタミナを存分に発揮してほしいところ。

日が雲に隠れ涼しい中でのスタート。始めの1周が90秒とスローペースで展開されるものの、3周目に京大の岩橋が前に出て速いペースになる。浜松はまだ余裕があるものの、杉本はついて行くのがやっとの展開になってしまう。さらに2000mを過ぎた辺りで京大2人がペースを上げてこれに浜松、杉本はついていけない。京大にあわやワンツーフィニッシュを決められてしまうかというところであったが、ラスト300mを過ぎた辺りから浜松が猛然とスパートをかけ、ラスト20mで京大の二番手を抜いて10'39"2の2位でゴール。一方

杉本は粘りを見せるものの及ばず10'54"8の4位でゴール。

結果としてはランキング通りということで、前週に大きな目標であった関東女子駅伝があったにもかかわらず健闘したと言えよう。冬場の練習による来期のさらなる飛躍を期待したい。

14:50 男子 5000m 決勝

青木(4年)、宮野(4年)、山田(4年)の出場。昼過ぎまでの強い日差しも収まり、比較的競技しやすい環境での試合となった。3人は先日の記録会で10000mに出場し、青木と山田は自己ベストを、宮野もセカンドベストを記録し調子は上がってきており、高得点が期待された。

レース開始直後、まず京大の平井が飛び出したが、ついて行く者はおらず、後方に集団ができる。宮野はその集団を引っ張り、青木と山田は後方で様子を見ているようだ。1000m過ぎ辺りで早くも京大の不破が集団から後れを取り始める。2500m辺りから山田も離され始め、青木、宮野、そして京大の毛芝、平井が先頭集団を形成する。そして残り1000mといったところで宮野がペースを上げて先頭に出ると京大の平井もそれに反応し、抜いたり抜かれたりを繰り返すが、間もなく宮野は完全に平井を引き離す。青木も終盤ペースを上げ、残り200m付近で平井を抜き去ったかみえたが、ゴール手前で抜き返されてしまう。結局、宮野が14'50"5で優勝、青木が14'53"3で3位、山田が15'27"3で5位であった。

他パートが京大相手に苦戦を強いられる中、宮野、青木の2人が自己ベストをマークするなど長距離はこの試合で最近の好調ぶりをいかに発揮したといえるだろう。2週間後に控える箱根駅伝予選会での東大記録更新に一層期待が高まる。

15:15 女子 4 × 100mR 決勝

5レーンに武田(2年)-久保木(3年)-鈴木彩夏(2年)-鈴木理香(3年)の走順で出場。この種目は一昨年、昨年ともに京大に1位を譲ってしまっているが、今年こそは東大が勝利を手にしたところである。

1 走武田は4レーンの京大と互角の走りでもカーブを駆け抜けバトンゾーンに入る。いつも通り2走久保木に危なげなくバトンパス、と思われたが、ここでバトンを落としてしまう。予想外のアクシデントに武田がバトンを急いで拾い、久保木に渡し直すも、このロスの中に京大に大幅な差をつけられてしまった。3走鈴木彩夏が懸命に京大を追い、4走鈴木理香にスムーズにバトンが渡るが、大幅なリードを奪った京大はすぐにゴールイン。鈴木は最後まで必死に走り、京大からかなり遅れた60"0の2位でのフィニッシュとなった。

走力ではなくバトンミスで勝敗が確定する悔しさの残る結果となってしまった。今年度の対校戦はこれで最終となってしまったが、幸い今回のメンバーは皆まだ2、3年生である。来年のレースに期待したい。

15:25 男子4×400mR 決勝

東大は2レーンに小松(4年)-春日(4年)-肱島(4年)-大澤(3年)の走順で出場。すでに東大は京大に大きな得点差をつけられており、この競技で勝ったとしても東大の総合優勝はかなわない。しかしながら、マイルくらいは勝ちたいという気持ちで力が入っていた皆の応援にこたえて、四選手にはなんとか一矢報いてほしい。

1 走小松は男子400mで自己ベストを出した勢いのまま、いいスタートを切る。しかし京大の花岡選手は男子400mに出場しておらず、万全の状態でもマイルに挑めたということもあって、小松は最初の100mで差をつけられてしまう。バックストレートまでうまく加速に乗り、第3コーナーからもスピードを落とすことなく最後まで良い走りを見せるも、差は縮むことなく2走の春日にバトンが渡る。京大の実力者、庄司選手を相手に、春日は離されることなく追いつく。いい走りをするがしかし追い抜くこともできず、そのまま3走肱島にバトンが渡る。肱島も前を行く森選手を追う展開となる。バックストレートから第3コーナー、ホームストレートと大きく失速することなく粘りの走りでもなんとか前に食らいつく。そしてアンカー大澤にバトンが渡る。大澤は気合いの入った走りでもぐぐん加速し、なんとか前を行く長谷川選手に近づこ

うとする。しかし最後まで差をつめることはできず、東大は3'23"2の2位という結果に終わった。

トラック競技はほとんど京大に優勝を持って行かれ、マイルも負けてしまい反省点の多々残る結果となった。今回の敗北を真剣に見つめ、来年こそは勝利への道を切り開いていくことが期待される。

フィールド

10:00 男子棒高跳 決勝

土居(4年)、松原(2年)、上野(1年)の出場。懸念された雨は降らず、暖かったが、強い向かい風が吹く厳しいコンディションでのスタートとなった。

松原は腰を痛めており、記録を残しに3mに挑戦。しかし、1跳目を落とすと、400mHの試合時間となってしまい、走り終わった直後の2、3跳目ではともにポールが立たず、記録を残せなかった。

土居、上野は3m80からの開始。3m80、4m00とも、二人とも余裕をもってこれをクリアした。この辺りから気温も上がり、風が追い風になり始める。続く4m20、上野はかすりながらも、高さ自体には余裕をもってクリア。土居は1跳目、追い風でポールが立ち過ぎて失敗。ややポールが柔らかく、2跳目も同じように失敗、3跳目は逆にポールを押しこまなさ過ぎ、ポールが立ち切らずに失敗。4m00の4位で試技を終えた。上野は続く4m30をパスし、4m40に挑戦。1跳目ではきちんとまとまった跳躍をするも失敗し、14ftでは高さが足りないかと思われた。しかし、2跳目、1跳目を上回る高い突っ込みを見せてこれをクリアし、5年振りとなる自己ベストを更新した。その後、4m50に挑戦するも、流石に高さが足りず、2跳目には体がほとんどバーを越える惜しい跳躍を見せるも、ここで試技を終えた。最終結果は2位だった。

近年京大勢に圧倒されてきた棒高跳だが、今年も事前ランキング通りの負け越しとなってしまった。しかし、人数も増え、1、2年生の力が伸びてきているため、このままきちんと練習を積み、来年雪辱を期してほしい。

10:00 男子ハンマー投 決勝

今村(3年)、佐々木(3年)、三本(1年)の出場。競技の準備など、時間に追われ思うように準備できないままに競技は始まった。

今村は今年の8月9日で急成長を見せており優勝も狙う気持ちで臨んだが、回転が安定せずファールを続けてしまい、3投目の32m11で3位であった。1投目からベスト近い投擲をした佐々木は一橋戦のやり投で痛めた肘が痛み、2投目をパスしたが、京大の3番手に負けそうであったために投げた3投目で31m17を記録し、この後の競技である円盤投に専念するために残りの試技をパスし4位で終了した。三本は3投目に自己ベストとなる20m11を記録、5投目に20m52を記録し6位であった。

結果としては京大13点東大8点で東大の惨敗であった。今村、佐々木が京大の2番手に実力で及ばなかったことが敗因であった。来年は京大の主力選手が大きく減ることになるが、油断せず力をつけて挽回してほしい。

11:15 男子走幅跳 決勝

廣瀬(6年)、飯島(2年)、栗田(1年)の出場。秋晴れで、非常に競技しやすい環境での試合となった。3人とも、今シーズン自己ベストを記録していないので、今季最後の対校戦で有終の美を飾ってほしい。

廣瀬は足の調子があまりよくなく、全助走での跳躍は断念し、短助走での跳躍となった。しかし、短助走での助走がなかなか合わず、4本目までの跳躍が全てファール。5本目、なんとか助走を調整し、6m02を記録。これがそのまま最高記録となり、6位で競技終了。飯島は2本目に6m60を記録し、自己ベストまではいかないものの、シーズンベスト更新が見えてくる。その後、助走開始位置を前にし積極的に記録を狙いにいったが、2本目を超えられず、3位で競技終了。栗田は1本目に6m30を記録し、シーズンベストを30cm近く更新し、3本目には向風0.4mで6m29をマーク。4本目以降での記録更新が期待されたが及ばず、5位で競技終了。

今回、京大に完敗したが、この悔しさをバネに冬期練習に励んでほしい。

11:15 女子走幅跳 決勝

丹家(3年)、武田(2年)の出場。すっかり秋の天候となり、空気は涼しいものの、日が差して暖かさを感じる良いコンディションの中での試合となった。京大の選手の記録が一人とびぬけてはいるが、2番手の選手を抑え、なんとかして得点で負け越さないようにしたいところ。

丹家は1跳目に3m89を記録。前半はこれが最高で、4位で後半へ進む。オープンの選手が競技を終了し、ここから試技の回転が速くなる。4跳目は3m88。5跳目は足が合わずファールとなる。6跳目はなんとか足を合わせたものの記録は伸びなかった。武田は2跳目に4m42を記録。3跳目は突っ込んでしまい低調に終わる。2位で折り返すが、この時点で3位との差がわずかなため、記録を伸ばしたいところ。4,5跳目はそれぞれ3m35、3m36と安定した跳躍を見せる。最後の6跳目に4m43と記録を伸ばし競技を終了した。

武田が4m43の2位、丹家が3m89の4位であった。対校得点は4点で京大に負け越す結果となった。この種目は、来年以降も厳しい戦いとなることが予想されるので、両選手のレベルアップと新たな選手の参入に期待したい。

11:30 男子円盤投 決勝

原(5年)、佐々木(3年)、片山(3年)の出場。天気は晴れ、10月としては気温の低い中での試合となった。佐々木は一橋戦でのひじの故障が治りきっておらず不安はあったものの、実力は頭一つ抜き出ていたので確実に1位を獲りたいところであった。片山、原は練習で好調が続いていたので、その勢いを活かして一つでもよい順位を獲り、京大に大きく差をつけたいところだ。

原は2投目に30m01を投げ、調子の良さを見せる。4投目に31m70を投げ自己ベストを更新した。結果は31m70で5位。片山は緊張しているようで、力を出し切ることができない。1,2投目はぎこちない動きになり、記録も31m台でスタートから躓いてしまう。徐々に調子を戻していったが、タメが作れず腕が下

がった投擲しかできなかった。結果は33m61で、4位。佐々木も調子が上がらずファールが続いたが、3投目に38m64を投げ、1位で前半を折り返す。4投目に39m48を投げ優勝を確実なものとしたが、やはりひじが痛むのか、本来の投擲をすることはできなかった。結果は39m48で1位。

辛くも1点差で何とか勝ち越したが、大量得点を狙っていただけに残念な結果であった。来年は2番手の片山が技術面や体力、精神面で成長し、しっかり点を獲ってきてもらいたい。

13:00 男子走高跳 決勝

土居(4年)、小松(2年)、工藤(1年)の出場。風もあまり強くなく、今シーズン一番のコンディションの中競技開始。持ち記録では京大に分があり、厳しい戦いを強いられそう。しかし3人とも一橋戦では自己ベストまたはタイ記録をだしており好調なので、くらいついていきたい。

足首に痛みがある土居は1m45から競技開始。順調にクリアしていき、1m60への挑戦。痛みはひどさを増し、思い切った踏切ができずなんとか3回目でクリアするものの、1m65は2回失敗試技の後競技を終了する。1m60から競技開始した小松は1m65まで順調にクリア。1m70は一度失敗するものの、2回目できっちりクリアする。1m75への挑戦は3度惜しい跳躍を繰り返すもクリアできず、競技終了。工藤は1m80からスタート。1m90を1度失敗するもクリアし、1m95への挑戦。惜しい跳躍をみせるものの、高さが上がりきらず失敗。競技終了となる。

結果工藤2位、小松5位、土居6位で、京大に大きく負け越してしまった。今シーズンの走高跳は安定した記録を残すものの、専門とする工藤と小松は自己ベストをだせず、相手のレベルで勝敗が分かれた。土居は引退となるが、若い2人の来シーズン以降の活躍に期待したい。

13:30 男子砲丸投 決勝

原(5年)、佐々木(3年)、片山(3年)の出場。以前から雨が懸念されていたが、時折晴れ間が見えるような曇りの天気となった。3名

ともこれより先に行われた円盤投げに続いての出場であり、切り替えが重要であった。

まず前半の3投では、原が10m近い記録を出し、佐々木は以前の一橋戦で肘を痛めていたので良い記録は出せず、片山はグライドから10m15を記録した。後半の3投においては原が前半より記録を伸ばして10m03を記録し4位。佐々木は肘の痛みはあったものの10m23を記録し2位、片山も前回の一橋戦に続き10m台を出し、最終的には10m15の成績で3位であった。

各々がベストとは言えないが良い成績を残し、砲丸投げではポイントを多く得ることができた。原、片山はまだまだ記録を伸ばしている途上であり、佐々木も今回は怪我があって十分な活躍ができなかったので、来シーズンには更なる活躍を期待したい。

13:30 女子砲丸投 決勝

武田(2年)、今須(1年)の出場。比較的高得点の狙いやすいこの種目、持ち記録で頭一つ抜け出ている武田は確実に優勝することが求められる。そして砲丸投二戦目となる今須が京大の選手に一人でも打ち勝つことで、貴重な勝ち越しが期待された。

武田は1投目で9m前半の記録を残してひとまず優勝を確実にすると、その後は大会記録の更新を狙う。しかしグライドの際の体重移動に苦しみ、なかなか記録を伸ばすことができない。結局優勝はしたものの4投目に出した9m29が最高記録となった。今須は立ち投げで順調に記録を伸ばし、3投目では6mを超える投擲を見せる。その後の記録更新はならなかったが、その後3投では果敢にグライドも試みた。最終結果は、6m03の4位であった。

結果として目標の勝ち越しこそ叶わなかったものの、この種目においては京大と互角に戦うことができた。投擲専門の武田はもちろん、今後の砲丸投での出場に意欲を示す今須も冬季にしっかり練習を積み、来年こそは完勝を目指してほしい。

14:00 男子三段跳 決勝

廣瀬(6年)、高木(4年)、沢登(2年)の出

場。廣瀬と高木にとっては最後の対校戦であり、是非とも有終の美を飾ってもらいたいところ。

廣瀬は走幅跳にも出場していたが、1跳目から果敢に攻めていった。2跳目に13m57を記録したが、走幅跳で優勝した京大の西村(2年)に及ばず、2位であった。高木は自己ベストを出した七大戦に比べて助走のリズムが今一つで、好記録を出せない。結局13m54で3位であった。沢登は怪我を押しての出場であった。4跳目には自己ベストを大きく越える跳躍を見せたが、惜しくもわずかにファール。6位に終わった。

今シーズンの三段跳は間違いなく廣瀬と高木の2人が牽引してきた。2人の引退により戦力的に非常に厳しい状況となるが、沢登を始めとする2年生以下が新しい時代を作り上げていくことを、切に願う。

14:30 男子やり投 決勝

原湖楠(5年)、原慎一郎(2年)、上野(1年)の出場。気温はやや低いものの、穏やかな天気で競技に適した天候となった。京大には50m台を投げる選手が3人もそろっており、劣勢を強いられることが予想された。全力を尽くし、一つでも上の順位を獲ってもらいたいところだ。

原湖楠は1投目から好調を見せた。助走の勢いを上手くやりに伝えることができ、自己ベストとなる44m85を投げた。その後も3投目に40m25、5投目に41m56を投げ40m台の投擲を続けるが、この日3種目となっていることもあり疲労もたまっていたのか、さらに記録を伸ばすことはできなかった。結果は44m85で4位。原慎一郎は1投目から34m76を投げセンスの良さをみせた。2投目には思い切った投擲を見せ、36m79とさらに記録を伸ばす。6投目にも36m45を投げたが記録を伸ばすことはできなかった。結果は36m79で6位。上野は2投目に42m26を投げ、さらに3投目には43m58を投げ自己ベストを更新した。後半も40m台を安定して投げた。結果は43m58で5位。

予想通りの大敗となってしまったが、それぞれ自己ベスト更新し全力を尽くした。今後

も技術を磨いて来年はやり投で勝ち越せるよう精進してもらいたい。

3.4 試合結果

第84回東京大学 京都大学対校陸上競技大会

第10回東京大学 京都大学対校女子陸上競技大会

於 東京大学陸上競技場 (H23.10.1)

男子 100m 決勝 (+2.0)			
1	牧川真央	京都大	10"95
2	眞武俊輔	京都大	10"99
3	八子基樹	東京大	11"15
4	春日慶輝	東京大	11"17
5	塚原和明	京都大	11"21
6	真木伸浩	東京大	11"32

男子 200m 決勝 (-2.3)			
1	牧川真央	京都大	21"8
2	眞武俊輔	京都大	22"3
3	真木伸浩	東京大	22"8
4	水上裕介	京都大	22"9
5	山田銀河	東京大	23"2
6	山下修平	東京大	23"2

男子 400m 決勝			
2	長谷川聡	京都大	48"86
1	大澤渉	東京大	49"45
3	庄司真	京都大	49"89
4	小松侑太	東京大	50"77
5	森裕貴	京都大	51"06
6	拙島一樹	東京大	52"14

男子 800m 決勝			
1	大川亮	京都大	1'56"3
2	高森一	東京大	1'56"6
3	水元惟暁	京都大	1'56"9
4	中井一宏	京都大	1'57"5
5	須田遊人	東京大	1'59"3
6	原慎一郎	東京大	2'02"7

男子 1500m 決勝

1	水元惟暁	京都大	4'02"86
2	久好哲郎	京都大	4'04"29
3	東大貴	東京大	4'04"89
4	吉岡基	東京大	4'07"32
5	水谷浩人	京都大	4'10"10
6	竹内真裕	東京大	4'10"47

男子 5000m 決勝

1	宮野健司	東京大	14'50"5
2	平井幹	京都大	14'52"1
3	青木佑樹	東京大	14'53"3
4	毛芝雄己	京都大	15'09"7
5	山田竜也	東京大	15'27"3
6	不破佑太	京都大	16'00"2

男子 110mH 決勝 (± 0.0)

1	上松祐太	東京大	15"6
2	栗林健一	京都大	15"8
3	巽浩之	京都大	15"9
4	川原善紀	東京大	15"9
5	西田光治	京都大	16"7
6	谷口尚史	東京大	17"1

男子 400mH 決勝

1	蔭山凌	京都大	55"50
2	上松祐太	東京大	55"82
3	大橋正義	京都大	57"01
4	高木海平	東京大	57"23
5	堀田孝之	京都大	59"87
6	松原洸也	東京大	1'01"70

男子 5000mW 決勝

1	近藤健一	東京大	23'01"7
2	瀧川朗	東京大	23'06"7
3	永田和寛	京都大	23'47"1
4	西田昌弘	京都大	25'11"1

男子 4 × 100mR 決勝

1	京都大	41"54
2	東京大	42"69

(八子-山下-中原-真木)

男子 4 × 400mR 決勝

1	京都大	3'19"0
2	東京大	3'23"2

(小松-春日-拙島-大澤)

男子走幅跳決勝

1	西村優汰	京都大	6m86(-0.9)
2	巽浩之	京都大	6m62(-0.4)
3	飯島靖成	東京大	6m60(-0.2)
4	秋元一志	京都大	6m39(-1.2)
5	栗田徹士	東京大	6m30(+0.2)
6	廣瀬彬	東京大	6m02(+1.9)

男子三段跳決勝

1	西村優汰	京都大	14m03(+1.4)
2	廣瀬彬	東京大	13m99(± 0.0)
3	高木海平	東京大	13m54(-1.4)
4	巽浩之	京都大	13m06(± 0.0)
5	日浦幹	京都大	13m01(+1.6)
6	沢登良馬	東京大	12m55(+1.0)

男子走高跳決勝

1	菅原知紘	京都大	1m95
2	工藤健太	東京大	1m90
3	松室堯之	京都大	1m75
4	小松寛	東京大	1m70
5	田中皓介	京都大	1m70
6	土居富裕	東京大	1m60

男子棒高跳決勝

1	田中皓介	京都大	4m50
2	上野隆治	東京大	4m40
3	秋元一志	京都大	4m20
4	土居富裕	東京大	4m10
5	清水宏幸	京都大	3m80
6	松原洸也	東京大	NM

男子砲丸投決勝

1	林翔太	京都大	10m36
2	佐々木駿	東京大	10m23
3	片山卓也	東京大	10m15
4	原湖南	東京大	10m03
5	矢川勝太	京都大	9m83
6	神野洋介	京都大	9m49

男子ハンマー投決勝			
1	高橋源一郎	京都大	37m35
2	矢川勝太	京都大	36m15
3	今村昌平	東京大	32m11
4	佐々木駿	東京大	31m17
5	林真幸	京都大	28m94
6	三本恭也	東京大	20m52

男子円盤投決勝			
1	佐々木駿	東京大	39m48
2	林翔太	京都大	35m40
3	矢川勝太	京都大	35m11
4	片山卓也	東京大	33m61
5	原湖楠	東京大	31m70
6	川島龍樹	京都大	23m27

男子やり投決勝			
1	林翔太	京都大	51m92
2	川島龍樹	京都大	46m75
3	矢川勝太	京都大	46m41
4	原湖南	東京大	44m85
5	上野隆治	東京大	43m58
6	原慎一郎	東京大	36m79

男子トラック順位		
1	京都大	112
2	東京大	82

男子フィールド順位		
1	京都大	96
2	東京大	71

男子総合順位		
1	京都大	208
2	東京大	153

女子100m 決勝 (+2.0)			
1	釜谷美翔子	京都大	12"92
2	鈴木理香	東京大	13"24
3	久保木結	東京大	13"30
4	加奈山憲代	京都大	13"35

女子400m 決勝			
1	釜谷美翔子	京都大	1'00"2
2	熊澤真奈	京都大	1'02"9
3	今須宏美	東京大	1'04"9
4	岩上佳世	東京大	1'15"0

女子800m 決勝			
1	岩橋優	京都大	2'19"0
2	今須宏美	東京大	2'26"5
3	加奈山憲代	京都大	2'28"0
4	鈴木彩夏	東京大	2'37"4

女子3000m 決勝			
1	岩橋優	京都大	10'25"3
3	浜松由莉	東京大	10'39"2
2	田中友理	京都大	10'40"2
4	杉本南	東京大	10'54"8

女子4 × 100mR 決勝		
1	京都大	51"7
2	東京大	60"0

(武田-久保木-鈴木彩-鈴木理)

女子走幅跳決勝			
1	宮崎怜奈	京都大	4m87(± 0.0)
2	武田有希子	東京大	4m43(± 0.0)
3	中尾優里	京都大	4m30(-0.8)
4	丹家里枝	東京大	3m89(+1.0)

女子砲丸投決勝			
1	武田有紀子	東京大	9m29
3	増本梨奈	京都大	6m58
4	市塚友香	京都大	6m45
2	今須宏美	京都大	6m03

女子トラック順位		
1	京都大	28
2	東京大	18

女子フィールド順位		
1	京都大	11

2 東京大 9

女子総合順位	
1	京都大 39
2	<u>東京大</u> 27

4 箱根駅伝予選会

4.1 長距離チーフの言葉

長距離チーフ 宮野健司

去年の予選会が終わってから、東大記録である10時間52分31秒を更新するという目標を掲げ、4年連続で出場する4年生が5人(青木・東・高田・宮野・山田竜)もあり、加えて毎年課題となっている「上位と中下位との格差」の問題もある程度クリア出来ておりましたので、東大記録更新は現実味を帯びておりましたが、結果は11時間07分04秒(レースタイムは11時間07分24秒)と遠く及びませんでした。それどころかここ数年守り続けていた国公立大最上位というチーム順位も、力をつけてきた東学大に敗れ、25位という結果に終わってしまいました。しかし、記録に関しては予選会のコースが立川に移ってからは最高記録(歴代では6位)ではあり、コンディションの面から単純比較できないとはいえ昨年より10分縮めたことを考えれば、現チームの出せる力は出せたと思います。特に4年は満身創痍で挑んだにもかかわらず、全員がしっかりとまとめてきました。それだけに改めて東大記録や11時間切りの凄さ、この立川でのコースの難しさ及び12人が100%の力で挑めることの難しさを感じたところです。

今後のチームとしての展望は大久保新チーフが詳しく語ってくれると思いますが、来年に向けては明るい材料は多いです。確かにこの4年間チームを牽引してきた4年生が抜けるのは不安材料ではあるでしょうが、昨年より10分縮まったのはほとんど3年生以下によるものです。また、4年が抜けたことにより今年走れなかったメンバーも来年こそ予選会を走ると意気込んで練習してくれるはず。そうすることで切磋琢磨し、最低限今年のチームを超えるようにしてもらいたいです。そうすればいつかはまた箱根駅伝という舞台に立てるチームになっていけるのではないかと思います。

この1年間、様々な面でサポート・応援して下さったOB・OGの皆様方や清里町の皆様方、及び他パートの皆様には深く感謝しております。そして、1年間私のような至らぬチーフについてきてくれた長距離パートの

皆さん、本当にありがとうございました。私にとってこのチームは最高のチームでした。そしてそんなチームのチーフであったことを誇りに思います。皆さんはいろいろ思うことはあったでしょうが、良かった面は継続しつつ、悪かった面は即効切り捨てるようにして下さい(全部切り捨てられたら哀しいですが、笑)。そして私にとっての最高のチームを超えてもらえればと思います。期待しています。

院長距離チーフ 山崎貴裕

“予選会出場”それがこの一年間の院生長距離チームの目標でした。結果から申し上げますと残念ながら予選会出場は果たせませんでした。予選会出場の標準が17'00(5000m)から16'30に上がった昨年はエントリー直前に10人揃うという綱渡りに成功しましたが、今年も直前まで揃わず、なんとか2人が標準を切ったものの9人しか揃わず、出場まであと1歩という結果でした。

新しいチームメイトを迎えた今春、出場基準を満たす選手はD2の北川、増田、D1の金尾、M2の高田、山崎、M1の畠田、早川(M1渡邊も標準を切っていましたが、予選会当日に学会があるため出場不可が決まっていた)の7人でした。そして、標準切りを目指す選手はD2の月崎、M2の石川、野村、M1の井上、木内、近藤と6人いました。学部時代に15分前半のタイムを持っていた月崎と野村、16分前半の力を持っており冬も継続した練習を積んでいた石川、競歩パートで鍛えられ走力が向上した井上、この4人は標準切りに近い選手として特に有力であると考えていました。

去年の予選会が終わってから、早々と標準切りを達成してしまおうと院生での集合練習を継続し、各種競技会に出場していました。しかしながら、月崎が16'31という非常に惜しいタイムで走るも、昨年の秋冬では新たな標準突破者を出すことはできませんでした。年が明けてからはチーフである私が就活で多忙になりチームを引っ張って行くことに限界を感じ、集合練習に出ることが少なくなりました。他メンバーも学会などがあり、冬の走り込みが不十分で、今春始めに標準切りを確信させる選手はいませんでした。春からの集合練習では標準切りを目指す選手が良い練習を積めるように、高田や山崎が自分の練習とは別に引っ張り役を買って出ました。しかし、各種競技会や対校戦OPの5000mに出場するも標準切りは現れず、8月を迎えました。残る主要な競技会は9月の一橋戦OP、横浜市ナイター、大東文化競技会、日体大長距離競技会の4つとなります。その競技会で標準を切ることを見据えて8月上旬の全体合宿@菅平高原および長距離合宿@清里町に一部メンバーが参加しました。しかし、8月下旬、標準切りを目

指すメンバーが1人離脱しました。野村が持病で入院することになったのです。標準切りを有力視していた選手であっただけにこの離脱はチームにとって痛手でした。そして、9月、目標としていた競技会に各選手が出場しましたが、一橋戦OPでも横浜市ナイターでも標準切りは現れず、残る望みは予選会エントリー直前の大東文化競技会と日体大長距離競技会に絞られました。大東文化競技会で遂に石川が16'23と自己ベストに迫るタイムで好走し標準切りを果たすと、翌日の日体長では井上が大幅自己ベスト更新となる16'10で標準切りを果たしました。しかし、両者以外の標準突破者は出ず、出場基準を満たす選手は9人と1人足りず予選会出場は叶いませんでした。院生チームが独立して予選会に出場できるようになった2004年、それからずっと続いていた院生チームの予選会出場を途絶えさせてしまったのです。院生チームの予選会出場の禱をつないできた諸先輩方をはじめ、院生チームにご支援、ご声援くださった方々にはそのご期待に応えられず申し訳ない気持ちでいっぱいです。私自身、自己ベストやそれに近いタイムを出していた金尾、山崎、井上、昨年は標準を切れずに悔しい思いをした石川を出走させることができず、非常に悔しい思いです。

反省すべき点としては、まず記録を狙いやすい昨年の秋冬で標準切り選手を1人でも多く出しておくべきでした。練習のたびに「秋冬の間に標準を切ろう」と言っていました。予選会エントリーまで数カ月以上あるという油断が各選手の心の中にあっただけだと思います。また、年明けから春までの期間で私がチーフの役割を十分に担えなかったのも、そこで代役を立ててチームとしての活動を継続して行っていくべきでした。その反省を活かして、新体制の院生チームにはこの冬までに標準突破者を10人以上揃えてほしいと思います。院生という立場上、練習を十分に積めない選手も多いのですが、なんとか工夫をして時間を捻出し、継続した練習を積んでいくと欲しいと思います。そして、お互いのモチベーションを維持するためにも、できるだけ集合練習に出て欲しいと思います。私も院生チームを引退した身ではありますが、これからも競技は続けていくつもりなので、できる限りの協力はしていくつもりです。そして、来年は必ず予選会への途切れた禱をつなぎ直してくれることを願っています。OBOGの皆様におかれましては、再び院生チームが予選会に出場できるよう、これまで以上に熱のこもったご指導、ご声援のほどよろしくお願い致します。

4.2 出場選手の言葉

学部生

宮野 健司 (3年) 1時間03分08秒 (174位)

東大を志望したとき(浪人時の5月)から、大学4年間のうちに学連選抜で箱根駅伝本戦に出場するという目標を掲げており、一般的に長距離をやっている者としては5000mの記録を伸ばしたいところですが、それよりもこの予選会の20kmで良い記録を出すことを優先させて3年半練習してきました。結果、5000m・10000mの持ちタイムに比較すると20kmはタイム・順位ともに良い位置で走れるようにはなったのですが、結局学連選抜には全く及ばないものとなってしまいました。予選会のチーム記録である10時間52分31秒を更新するためには私は62分30秒で走る計算で、最初は学連選抜のボーダーラインと思われる61分台を狙いつつ、後半落ちて62分30秒は出せるように計画しており、それすらも達成できませんでしたが、今の実力は出し切りました。それだけに無念です。

5km通過の15分22秒も予定通りにかなり余裕を持って走れ、ちょうど近くにいた麗澤大や松蔭大の集団走についてなるべく力を温存しようとしたのですが、自衛隊駐屯地を抜けてからペースが落ちていたことに気づかず(5km以降1km毎の距離表示がなくなっていたことを忘れていた)、10kmは30分台での通過の予定でしたが31分09秒とわかり、この5kmでこれだけ落ちている時点で学連選抜入りどころか62分30秒も難しいと気づきました。幸いまだまだ余裕があったので一か八かでペースアップしようとしたのですが、10km~15kmの5kmは前の5kmと変わらず(ただ、ペースアップするくらいの気持ちがなければそのまま落ちて行ったと思います)後はひたすら公園内で粘るだけのものとなってしまいました。ただ、至るところで応援して頂いたおかげで落ち込みは最小限に食い止めることができ、アップダウンにも何とか対処できたので、ラスト1kmはあとはどうにでもなれと思いペースを上げ、ずっと目の前にいた昨年の全国高校駅伝1区区間賞の西池(法政大)が刺せそうだったので一旦抜きましたが、直前で刺し返されてゴールしました。

4回予選会を走り、65分43秒(252位) 64分00秒(242位) 64分44秒(194位) 63分08秒(174位)とそれなりのレベルで記録が順位を伸ばし続けることが出来た点は良かったと思

ますが、反面あくまでも「それなり」に終わってしまったことも否めません。大学院に進学しても競技を続けるつもりではありますが、今ほど競技に集中できるかは未知である上、今は「終わってしまった」という気持ちが強いので、来年の目標を立てることは難しいです。今後はとりあえず30km及びマラソンの東大記録更新を目指しつつ練習していきたいと思います。

最後になりましたが、朝早くから雨の中昭和記念公園に足を運んで応援して下さったチームメイトの皆さん、OB・OGの皆様方、そして清里町の方々、及び現地には来ずとも応援して下さった皆様方には心から御礼申し上げます。そして、私の学連選抜入りを少しでも期待して下さった皆様方には力が及ばなかったことをお詫び申し上げます。

東 大貴 (3年) 1時間05分40秒 (272位)

坐骨神経痛等の影響で、全く走りこめない状態で出走することになってしまいました。公園に入るまではまずまず粘れたものの、公園に入ってからアップダウンに苦しみ、大幅にペースダウンしました。本当に情けない走りですが、今の実力であれば当然の結果だと思います。

4回予選会に出場しましたが、結局満足の行くレースはできませんでした。法科大学院に進学予定ではありますが、自分は陸上に向いていないということがよくわかったので、基本的には引退する方向で考えています。

皆さんの応援を受けて走ることができて、とても幸せでした。本当にありがとうございました。

青木 佑樹 (3年) 1時間05分41秒 (273位)

私にとって最後の予選会が終わりました。1年生時に予選会へ出場した際、その雰囲気を感じ、刺激を受けました。結局、4回出場させて頂きました。大学陸上競技生活を通じ、様々な対校戦を含め、予選会に挑戦し続けることができましたのも、OB・OGの皆様、部員のみなさん、陸上競技に携わる方々すべての皆さまのお陰です。誠にありがとうございました。今回の予選会で、目標としていた記録には1分半届きませんでした。レースを何度も振り返りましたが、やはり力を出しきれなかったのではないかと、という思いが拭いきれずにあります。特にレース中盤でペースダウンしてしまったのが不振の原因だと思われます。ここ1カ月はトラック種目で自己記録を続々と更新出来ており、好調であったことを考えると、中盤の積極性が足り

なかったと考えています。ご恩を仇で返す形になってしまい、申し訳ありませんでした。しかしながら、チーム全体としては、目標の東大記録には届かなかったものの、近年の立川における予選会記録を更新するタイムを記録することが出来ました。これは、一人ひとりの努力はもちろんのこと、長距離チームを作り上げてきた歴代チーフを含め前チーフ宮野の手腕によるところが大きいのと考えています。加えて、今回は出走12名中、4年生が6人を占めました。多くの同期と一緒に走ることが出来たのはとても良い思い出となりました。陸上をする意味はこのような喜びを感じることにもあるのだな、と感じることが出来ました。競技レベルに加え、人間性に信頼の置ける仲間めぐり合い、このような貴重な体験を得ることが出来たこと、本当に同期の皆には感謝しています。私たち4年生は1年時から対校選手を務める機会が多く、結果として後輩たちに経験を積ませる機会が非常に少なくなってしまいました。その点は心配ですが、私たちの記録を当面の目標にしながら記録を伸ばしている者がたくさんおり、喜ばしく思います。後輩たちには今年の記録をぜひ更新してほしいですし、より上を目指して切磋琢磨してほしいと願っています。今後はOBとして彼らの活躍を後押ししていきたいと考えています。最後になりましたが、4年間充実した陸上生活を送らせてもらい、誠にありがとうございました。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

山田 竜也 (3年) 1時間05分49秒 (276位)

1ヶ月ほど前から足底痛に悩まされ、また腰の調子もあまりよくなさく、夏合宿以降は練習が思うようにつめていませんでした。今年こそは64'30"を切りたかったのですが、今の自分ではそのタイムには到底及ばない、66分を切ることも危ういと思い、体感で3'20"/kmを切る程度で入り、様子を見て対応するレースプランでした。

スタートして最初の1kmを3'14"、次を3'13"で入り、予定よりも速くなったのですが、それほど力んでいる感覚でもなかったのが前方にいる青木、梁瀬、大久保を追いかける形となりました。公園を出てからもペースは落とさず、7kmあたりで青木に追いつき、並走して10kmまでをイーブンで通過できました。このあたりからやや疲れが出始め、青木には離されましたが、公園内に入ってから途切れることのない応援のおかげで最低限の落ち具

合にとどまることができたと思います。15km以降は左足が痛くて苦しい展開になり、特に18kmを過ぎてからは過呼吸気味になり本当につらかったし、タイムもここ3年で最も悪く決している出来ではありませんが、レース前に想像していたタイムよりは速く走れたと思います。

4年間の最後のレースが微妙な結果で終わり、後悔がないわけではありませんが、無事走り終わることができて正直なところほっとしています。ここ1年くらいは対校戦でもまったく活躍できず、チームには迷惑をかけてばかりいました。今回もタイムでチームに貢献することができず、申し訳ありませんでした。今後は学部生チームを応援する立場になります。来年はぜひ今年の記録を上回ってください。雨の中、応援サポート本当にありがとうございました。

梁瀬 将史 (1年) 1時間06分16秒 (286位)

64分30秒切りを目標にしていたのですが遠く及ばず、でした。9月下旬から10000m・5000mとベストを更新し上り調子だったのに加え、自分は長い距離のロードが得意だから行けるかも...と思っていたのですが、大甘でした。この日に向けてやることはすべてやって、今までで一番の調子の良さだったと思います。

64分30秒を狙うために、最初の10kmを32分フラットで行こうと考えていていました。しかし自衛隊駐屯地では、水たまりに突っ込んで減速したり、回避しようとして余計な体力を使い、1km辺り3分13~16付近に留まってしまい、それでいて余裕があったわけではなかったのがこの時点で64分30秒は厳しいなと感じてしまいました。駐屯地を抜けた頃から徐々にキツくなって8km付近で青木さん山竜さん大久保さんから離されてしまいました。ズルズル落ちてしまい、気持ちが切れそうになりましたが、10kmを過ぎてくると周りもペースが落ちていたし、すぐ前に東学大の選手が2人いたので自分が2人に勝てばチームが東学大に勝てるはずだと目標を見つけて走ることができました。公園に入ってからは平地や下りでは辛抱して、上りで順位を上げていきました。昨年同様ラスト5kmは非常に長くキツく感じましたが、皆様方の応援のおかげで何とかピッチを上げて粘ることができました。今まで20km以上のレースではラスト5kmがガクッと落ちてしまっていたので16分台でこらえられたのは収穫でした。

この結果については不満ですが、トラックのタイムから客観的に判断すると妥当なところなのだと思います。この大会に向けてしっかり練習を積んでいたのは北海道清里町での夏合宿と9月下旬からの1ヶ月だけだったのに、ロード(長い距離)に強いという無根拠な自信から、目標設定が高すぎていて明らかに自分の努力が足りていませんでした。去年はある程度の達成感を得られたのですが、今年は2分28秒速くなったにも関わらず、4年生4人とはまたもや相手にならなくて、悔しさ・不甲斐なさしか残っていません。高い目標を掲げていたのにこのような結果になり、期待を裏切ってしまったことについては本当にすみません。来年また2分28秒タイムを更新できるように、今度は1年間しっかり練習を積み、まずはトラックのタイムをもっと伸ばして臨みたいと思います。

最後になりましたが、部員、OB・OGの皆様、清里町から駆けつけてくださった皆様に応援・サポートして頂いて大変力になりました。本当にありがとうございました。これまでチームを牽引してきた4年生方が引退してしまうのは大変残念ですが、これからは先輩方の穴を埋められるように、これまで同様、「強い」長距離チームになれるように努力していきたいと思います。

大久保 翔平 (2年) 1時間06分24秒 (291位)

最悪のレースから1年、65分切り、あわよくば64分半とっていましたが甘かったです。

初めの5kmはほぼ予定通りで通過、しかし思ったよりも疲れが来ていて想定よりも落とす必要があるのではとも思いました。だがここで落としても昭和記念公園の坂道ではどの道上げられないということで耐えきってタイムを稼ぐことにしました。10km通過はその中でなんとか通過。しかし徐々に体が動かなくなっているのを感じていました。そんな中チェックできた12kmで3分20秒ペースを超えていることに気づきそこからは近くにいた学芸の福井君を目標に走りました。15kmまでは何とかペースを維持できていたのですがそこから特に上りで全く走れなくなり上りで離されては下りで追いつくということを繰り返していました。なんとか福井君についていたのでそこまで落ちていないだろうと思ったら、18kmで実は3分30秒をやっと切る程度のペースに落ちていることに気づいて上げようとするものの体が付いていけなく、何とかラスト1kmで少し切り替えるのが精いっぱい

した。

ポイ練で設定を3分15秒にして何とか行けるのではという気もしていたのですが実際は厳しかったです。結果は今の實力、このタイムで入れば妥当かなという気がします。33分を切る程度で前半入っていれば最後の落ち込みなく行けてタイムも少しは伸びたかもしれませんが所詮たれば、後悔はしていません。ただ目標に対して自分の實力が足らなかつただけなのでもう一段階も二段階も強くなります。

応援とサポートありがとうございました。特に昭和記念公園の中に入ってからの方々の応援には本当に感動しレース中にもかかわらず目頭が熱くなりました。

岩川 純也 (2年) 1時間07分49秒 (326位)

夏合宿などで走り込んだ成果を見せつけ、66分30秒を最低限の目標としていました。これまでにないほど調整がうまくいき、気持ちも体も万全の状態で臨むことができました。アップは雨で体を冷やさないように意識し、状態のよさを確認しました。

スタートして周りがゆっくりだな、余裕だな、と思っていたら1km3分15秒で走っていて自分でもびっくりしました。ちょっと自分には速すぎると思いましたが、あまりにも楽だったので5kmまでそのまま行くことになりました。そこから集団がばらけてきて、自分のペースを守っていたつもりですが、徐々にペースダウンしていました。10kmではまだ余裕があり、その後少し苦しくなり始めましたが、抜いてくる人についていくなどして公園に入るまではいいペースで走り、66分30秒はいけると確信していました。しかし公園に入ると、試走のときは何とも思わなかつた上り坂がとてつもなく苦しく感じられました。脚に一気に疲れがきました。そうすると上体がぶれて呼吸やおなかのほうも苦しくなるという悪い癖が出て、どうあがいてもペースは落ちる一方でした。ラスト1kmでようやく切り替えられ、学芸大の牛越くんなど数名を抜いてゴールしました。

最初楽だと思ったペースがやはり速すぎて、情けない結果となりました。「調子のよいときほど落ち着いて走る」ということが必要でした。また、自分はまだ20kmを走りぬく脚力ができていなかったと思いました。オーバーペースでどれだけ苦しくてもラスト5kmは17分を切れるような体になら

なければなりません。

悔しい結果ではありますが、今持っている力は出し切ったと思います。去年からは1分34秒タイムを縮め、この1年間の成果と言えるでしょう。また、今回のような調整で試合に臨めば5000mや10000mでは伸びる余地が十分あると実感しました。あと1年、メリハリのある練習でしっかり力をつけ、来年は64分30秒を切ってチームに貢献しようと思います。

最後に、特に公園に入ってからですが、たくさんの応援に後押しされ、止まりそうな脚を動かして走りきることができました。部員の皆様、OB・OGの皆様、清里町の皆様、本当にありがとうございました。

高田 知樹 (3年) 1時間08分22秒 (340位)

今年の予選会は大学最後ということもあり、例年以上の気持ちを持って挑みました。

個人の試合の展開としては前半にエネルギーを使い過ぎずに走ることができ、10km過ぎに多少のペースダウンはあったものの、公園の応援もあったので、特に気になっていた終盤で力尽きることもなく、試合前にイメージに近い走りをすることができました。自己ベストである2年時の記録にはおよびませんでした。今自分ができる限りの走りができたと思います。しかし、逆に言えば2年から見て實力を伸ばすことができず、4年間の集大成と言えるものには足りないと感じています。

全体としては予選会及び東大記録の高さを感じるとともに、自分の力不足を含め悔しく思いますが、一方で宮野や東をはじめとしたメンバーとともに走れたことはうれしく、今回の記録に僅かなりとも貢献できたことは光栄に思います。そして、今後後輩達がコースレコード更には東大記録を更新してくれると信じています。

応援ありがとうございました。

渡邊 駿 (2年) 1時間09分01秒 (356位)

2月にハーフマラソンの自己ベスト(69分52秒)をマークして以来、全く結果が出せない中、このレースを迎えました。当初64分台を狙いたいと思う時期もありましたが、合宿中の怪我やそれ以降の低迷もあり現実的にはチーフに課された66分40秒が目標となりました。ですが終わってみると今シーズンの流れをそのままに精彩を欠く結果に終わりました。

5kmを16分40秒くらいで通過し、そのリズム

のまま走っていたはずが10km通過ではペースが落ちていました。その後折り返しあたりで動きが戻ってきてペースを戻すことができたのですが、公園に入って坂を上った瞬間脚が動かなくなりどんどんタレていってしまいました。自分でフォームが崩れていることも分かっていたのですが、身体に力が入らず元の動きに戻すことはもはやできなかったです。

心身の状態がうまく噛み合わずここまでできてしまい、どうにも糸口が見えず辛い状況が続いているのですが、怪我で苦しんでいる選手と比べれば辛いわけでもないはずなのでなんとか踏ん張って頑張りたいなあと思っております。今シーズン期待を裏切り続けてきた中、それでも変わらずに応援やアドバイスをいろいろな方から頂いているのがとても嬉しく、救いのように思っています。チャンスは残り少ないですが、残された時間で頂いた応援に少しでも応えたいです。皆様ありがとうございました。

原 知明 (1年) 1時間09分14秒 (361位)

初めての20km以上の距離のレース、また初めての対校選手として、貴重な経験を積ませていただきました。タイムは目標の68分に届きませんでしたが、レース内容には概ね満足しています。

アップの前はかなり緊張していましたが、アップをしていくにつれてだんだんと緊張がほぐれていって、かなり落ち着いた状態でスタートすることができました。そのおかげで最初5kmを突っ込み過ぎることなく、余裕を持って通過することができました。5kmを過ぎたあたりで自分より少し速いくらいのペースの人を見つけてついていくことを試したのですが、少し呼吸とフォームが乱れ始めてしまいました。後半バテてしまうことを警戒して、自分のペースを保ちつつ、ペースの落ち始めた人を着実に抜いていく姿勢で10kmまで走りました。今思えば、ここは少し守り過ぎていました。12km手前から前の選手との距離が縮まり始め、自信も少し持ち直してきたのでピッチを上げることを意識しました。しかしフォームの乱れを全く気にしておらず、ここで無駄な疲労をためてしまった気がします。昭和記念公園に入ってから、周りの選手が遅く見えていて、自身のペースも上がってきていると思っていましたが、上り坂で大きく体力を削られていたこともあり、実際にはペースが落ちていました。このことを自覚できないまま走り続け

てしまったことが今回最大の反省点だと思います。ラスト3kmからはかなり脚にダメージが来ていましたが、皆さんの応援のおかげでなんとか持ちこたえて頑張ることができました。ラスト1kmもコースが曲がりくねっていてなかなかフィニッシュが見えず不安でしたが、しっかり走り抜けてゴールすることができました。

今回は全力を出し切ったうえでこのタイムだったので、今後の課題はスピードの強化だと思います。今までは20kmに耐えるための練習しかしてこなかったのが当然といえば当然なのですが、自主練でjogのペースを速くしたり、ペーランをしたりすることで速く長く走れるようになろうと思います。また、今後20km台のレースでもっと経験を積み、今回の経験も含め、来年以降の予選会に活かしていきたいです。

大雨の中、たくさんの応援とサポート、本当にありがとうございました。

田片 亨典 (2年) 1時間09分31秒 (366位)

練習の成果を発揮する選手の皆さんを応援する側だった昨年から一年たち、今度は自分が選手として予選会を走ることができました。しかしながら結果は部内11番手、チームの記録に貢献することができず、非常に残念です。

ほぼオープンでの68分切りを目指しましたが、前半いいペースで入ったつもりが目標ペースに及ばず、後半上げようにも15km過ぎまでのペース維持が精一杯で、そこから一気に足が動かなくなってしまいました。公園内でタレてからのたった数kmがとてつもなく長く感じ、立て直そうとするよりも、不覚にも「早く終われ」という気持ちが先にたってしまったあたり、自分の弱さを感じます。

今回の結果をうけて、これから取り組むべきことは、とにかく練習を継続させることです。20kmを安定して走りきるためには継続的な走り込みが必要ですが、今年の自分の場合、走り込むどころか故障つづきで継続的な練習からはほど遠い状態でした。トラックなど短い距離なら小手先の練習でだましても、距離が長くなるにつれて走り込みの結果が響いてきます。この予選会を走るにあたっては半ば無理矢理ケガから復帰した風になりましたが、幸いにして20kmを終えても大きな痛みはありませんので、来年に向けてまた一から練習を積んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、雨の中応援してくださった

部員のみなさん、OB・OGの皆様、そして遠方からお越し下さった清里町の皆様、本当にありがとうございました。今年の悔しさを忘れず、来年こそ好走してご期待に応えたいと思います。

石丸 翔也 (4年) 1時間13分29秒 (435位)

ラップは18'10"-18'11"-18'30"-18'38"でした。練習の調子から、きちんと合わせられれば70分切り、悪くても71分以内では走れると想定していました。最初から最後までペースが思うように上がらず、ここまで悪い結果となったのは何故か、まだ受け止め切れていない面もありますが、反省点を3つ挙げたいと思います。

1つ目は、予報を大きく上回る雨への対応です。他の選手と同程度の雨対策は行なっていましたが、最悪のケースを想定し完璧な対策をすることで少しでも実力差を埋める努力をすべきでした。同じようなコンディションで大失速した経験があり、どうやら雨に弱いようなのでなおさら注意が必要でした。具体的には、レインコートはセパレートで足元も完全防水する、着替えをこれでもかというほど多めに用意する、などです。

2つ目は、直前1ヶ月に足首の違和感でロングジョグができず、土台が崩れてしまったことです。練習では問題が出なくても、逆境で脆い面が露呈してしまったと思われます。

3つ目は、絶対的な実力不足です。たとえ最善の走りができたとしても、今回の結果では部内10位以内に入ることはできなかったでしょう。多少崩れたとしても70分以内では走れるくらいの実力がないと全くお話になりませんでした。

このような不甲斐ない走りをしてしまったのにも関わらず、雨の中最後まで応援とサポートをいただき本当にありがとうございました。この借りは来年必ず、院生チームとして出場し、学部生に刺激を与える走りをするので返させて頂きます。

4.3 試合結果

第88回箱根駅伝予選会

於 自衛隊立川駐屯地～国営昭和記念公園 (H23.10.15)

順位	大学名	タイム
1	上武大学	10時間12分08秒
2	山梨学院大学	10時間12分43秒
3	国土館大学	10時間13分38秒
4	東京農業大学	10時間13分58秒
5	神奈川大学	10時間14分03秒
6	帝京大学	10時間14分18秒
7	城西大学	10時間13分55秒 (10時間16分07秒)
8	中央学院大学	10時間16分07秒 (10時間16分22秒)
9	順天堂大学	10時間16分14秒 (10時間19分39秒)
以上が本戦出場		
10	法政大学	10時間16分43秒 (10時間19分39秒)
25	東京大学	11時間07分04秒 (11時間07分24秒)

7位以降の記録は、第90回関東インカレの成績に基づくアドバンテージタイムを差し引いた最終総合タイム。括弧内の記録はレースタイム。

個人順位		
順位	名前	タイム
東京大学		
174	宮野健司	1時間03分08秒
272	東大貴	1時間05分40秒
273	青木佑樹	1時間05分41秒
276	山田竜也	1時間05分49秒
286	梁瀬将史	1時間06分16秒
291	大久保翔平	1時間06分24秒
326	岩川純也	1時間07分49秒
340	高田知樹	1時間08分22秒
356	渡邊駿	1時間09分01秒
361	原知明	1時間09分14秒
11時間07分24秒		
366	田片亨典	1時間09分31秒
435	石丸翔也	1時間13分29秒

総合順位

5 新主将・新女子主将・新主務・新長距離チーフの言葉

5.1 新主将の言葉

新主将 佐々木駿

2012年度主将を務めさせていただくことになりました。投擲3年の佐々木駿です。先日行われました京大戦・箱根駅伝予選会には数多くのOB・OGの皆様にご心強い声援をいただき、現役一同大きな力となりました。

今年度の対校戦で中心的に活躍した4年生の先輩方が抜ける穴は大きいですが、3年生以下は今後とも精進し、その穴を埋めてなお山を築けるよう努力して参りたいと思います。

関東インカレ一部昇格・箱根駅伝本戦出場など高い目標も、選手一人一人の着実な進歩により実現が近づいてくるものであります。最終的な目標が如何に現状と乖離したものであっても、小さな一歩を大切に、日々進化を続けられれば、必ずや目標は達される時が来ると信じております。

目標に向かってチーム一丸となって精進して参りますので、OB・OGの皆様の御指導・御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

5.2 新女子主将の言葉

新女子主将 久保木結

このたび女子主将を引き継ぎました短距離パート3年の久保木結です。

来年度は女子選手14名の半分を占める3年生7名が最上級生となり戦力の充実が見込まれます。また2年生以下も頼もしく期待の選手ばかりです。さらに、偏りはあるものの各パートに在籍選手がおりますので各自が専門種目に専念し対校戦に臨めることと思います。14名という人数の多さを生かし、競い合っ質の高い練習を積み上げていきます。

とは言え、OB・OGの皆様のご支援を頂いているからこそこの競技です。皆様に対校戦の勝利と関東インカレ、全日本インカレへの出場という良いご報告をできまよう部員一同記録向上に努力して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

5.3 新主務の言葉

新主務 渡邊駿

このたび、新しく主務に就任いたしました長距離3年

の渡邊駿です。これまで3年間東京大学陸上運動部に所属している中で、部員相互で刺激し合ったり助け合ったりすることでこの大きな団体が機能できているということを感じると同時に、OB・OGの皆様のご支援がそのために不可欠なものとなっていると強く実感いたしました。今後1年間、部員全員で協力し合いながら、そして、部員の各々が、OB・OGの皆様に対する感謝の気持ちを強く持って、この部を作り上げていくことができるように努めて参る所存です。また、近年は実務面のみならず競技面でも多くの貢献をもたらす主務が続いておりますので、その流れを受け継ぎ一選手としても精一杯努力して部を牽引していくことを目指します。対校戦の際にはぜひ会場まで足を運んでいただければ幸いです。今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

5.4 新長距離チーフの言葉

新長距離チーフ 大久保翔平

新しく長距離パートチーフになりました大久保翔平です。これから1年間よろしくお願い申し上げます。

この1年間、宮野先輩、東先輩を筆頭とした強力な4年生を中心に「東大記録更新」を目標に据えて練習してきました。14分台が3人、15分台前半も3人と非常に層が厚く今年こそ更新できるのではと期待されましたが結果は11時間も切れずコースレコードどまりでした。満身創痍の選手もあり全員が万全というわけではなかったですが、これでもまだ実力不足だったと言わざるを得ないでしょう。

さて、これまでチームを引っ張ってきた4年生が抜けて来年の予選会にはフレッシュなメンバーで臨むこととなります。幸い5000m15分台は長距離パートに大学時代の記録で8人、高校時代の記録を含めると11人います。予選会もそうですがトラック対校戦の枠を巡る争いはいままでに激化するでしょう。これを上手く利用しチームのレベルアップを図っていきたく思います。そしてそうすれば強いと言われていた今年の記録を抜くのもそう難しいことではなく、さらに11時間切りなど上の目標にも届くと思います。再び箱根への道、来年それを達成はできなくても、着実にその道を前へ前へと進んでいきたいと思っております。期待に応えられるよう精一杯練習に励んでいきますので引き続き応援、協力をよろしくお願い申し上げます。

新院長距離チーフ 井上雄介

この度院長距離チームの新チーフを務めさせていただきますことになりました、M1の井上雄介です。チーフとなる

のは初めてですので至らない点もあるかと思いますが、1年間どうぞよろしく願いいたします。

今年度は当日出走可能な標準記録突破者が惜しくも10人に届かなかったために予選会に出場することができず、悔しさと応援して頂いている方々に対する申し訳ない気持ちで一杯です。予選会がチーム戦であるということとを改めて痛感させられました。院生である以上学業等で忙しくなかなか全員集まって練習する機会に恵まれないのが現状ですが、1人1人のメンバーが今回の事態を重く受け止め、これまで以上に高いモチベーションで練習に臨んでいくことが不可欠だと思います。今の季節が最も記録を出しやすい季節であるので、今のうちに標準記録突破者を1人でも多く出すとともに標準を切っているメンバーも記録を向上させていくことが当面の課題です。来年の予選会では今年の雪辱を果たせるよう、そして記録の面でも期待に応えられるよう努力してまいりますので、今後とも変わらぬご支援・ご声援のほどよろしく願いいたします。

6 自己記録更新者一覧 2011.9.4~10.15

9/24,25 第218回日本体育大学長距離競技会

800m	鈴木俊輔 (4年)	2'02"73
1500m	竹内真裕 (4年)	4'04"60
1500m	吉岡基 (2年)	4'08"02
10000m	青木佑樹 (4年)	31'35"74
10000m	山田竜也 (4年)	32'05"29
10000m	大久保翔平 (3年)	32'09"60
10000m	梁瀬将史 (2年)	32'18"21

10/1 京大戦

200m	桜井峻 (2年)	25"44(+0.2)
400m	小松侑太 (4年)	50"77
400m	岩上佳世 (3年)	1'15"0
800m	丸野幹人 (1年)	2'02"5
800m	中島寛貴 (1年)	2'13"8
1500m	吉岡基 (2年)	4'07"32
5000m	宮野健司 (4年)	14'50"5
5000m	青木佑樹 (4年)	14'53"3
5000m	大久保翔平 (3年)	15'18"7
5000m	梁瀬将史 (2年)	15'29"9
5000m	中里彰 (1年)	18'34"0
5000m	筒井隆徳 (1年)	18'36"3
5000mW	近藤健一 (2年)	23'01"7
棒高跳	上野隆治 (1年)	4m40
砲丸投	今須宏美 (1年)	6m03
円盤投	原湖楠 (5年)	31m70
ハンマー投	今村昌平 (3年)	32m11
ハンマー投	三本恭也 (1年)	20m52
やり投	原湖楠 (5年)	44m85
やり投	上野隆治 (1年)	43m58
やり投	原慎一郎 (2年)	36m79

7 2011年度部内5傑 2011.10.15 現在

*学年は2011/4/1時のもの

男子 100m

1	春日慶輝(4年)	10"83(-0.5)	7.24
2	真木伸浩(3年)	11"01(+1.3)	6.25
3	山下修平(3年)	11"15(+2.0)	10.1
4	中原洋(2年)	11"24(+1.3)	7.17
5	八子基樹(2年)	11"26(+0.7)	5.28

男子 200m

1	大澤涉(3年)	22"11(+0.9)	6.5
2	真木伸浩(3年)	22"30(+1.7)	7.2
3	春日慶輝(4年)	22"68(-2.1)	4.17
4	八子基樹(2年)	22"91(+0.3)	4.10
5	山下修平(3年)	22"95(+0.5)	7.2

男子 400m

1	大澤涉(3年)	49"20	5.28
2	真木伸浩(3年)	50"35	9.3
3	上松裕太(3年)	50"43	9.18
4	小松侑太(4年)	50"77	10.1
5	山田銀河(1年)	51"54	9.3

男子 800m

1	高森一(4年)	1'56"6	10.1
2	須田遊人(6年)	1'59"3	10.1
3	山本憲二郎(2年)	2'00"29	4.2
4	原慎一郎(2年)	2'00"31	6.11
5	池田剛志(4年)	2'00"94	6.11

男子 1500m

1	東大貴(4年)	3'59"64	5.28
2	竹内真裕(4年)	4'04"60	9.24
3	大久保翔平(3年)	4'05"36	7.24
4	宮野健司(4年)	4'05"83	6.11
5	吉岡基(2年)	4'07"32	10.1

男子 5000m

1	宮野健司(4年)	14'50"5	10.1
2	青木佑樹(4年)	14'53"3	10.1
3	東大貴(4年)	15'01"69	5.28
4	大久保翔平(3年)	15'18"7	10.1
5	山田竜也(4年)	15'26"72	7.24

男子 10000m

1	宮野健司(4年)	30'46"52	9.24
2	青木佑樹(4年)	31'35"74	9.24
3	山田竜也(4年)	32'05"29	9.24
4	大久保翔平(3年)	32'09"60	9.24
5	梁瀬将史(2年)	32'18"21	9.24

男子 ハーフマラソン

1	宮野健司(4年)	1:12'24"	5.22
---	----------	----------	------

男子 110mH

1	川原善紀(2年)	15"56(+0.9)	6.25
2	上松裕太(3年)	15"73(-0.8)	9.18
3	谷口尚史(3年)	15"95(+0.3)	6.25
4	杉森康平(2年)	16"07(+0.7)	7.17
5	原湖楠(5年)	18"70(+1.4)	4.2

男子 400mH

1	上松裕太(3年)	54"17	7.2
2	高木海平(4年)	55"46	7.2

男子 3000mSC

1	青木佑樹(4年)	9'23"87	7.24
2	山田竜也(4年)	9'38"22	7.2
3	渡邊駿(3年)	9'42"00	7.2
4	岩川純也(3年)	9'43"45	7.2
5	宮野健司(4年)	10'10"86	5.3

男子 5000mW

1	瀧川朗(3年)	22'22"57	7.2
2	近藤健一(2年)	23'01"7	10.1
3	堀田樹生(2年)	24'21"7	10.1
4	上西康平(2年)	29'47"28	7.2

男子 10000mW

1	瀧川朗(3年)	45'05"89	5.15
2	近藤健一(2年)	48'10"54	5.15
3	堀田樹生(2年)	50'52"90	4.30

男子 走高跳

1	工藤健太(1年)	1m90	7.2
2	小松寛(2年)	1m70	9.3
3	土居富裕(4年)	1m60	9.3

男子 棒高跳

1	上野隆治(1年)	4m40	10.1
2	土居富裕(4年)	4m00	5.28
3	松原洸也(2年)	3m60	7.2

男子 走幅跳

1	飯島靖成(2年)	6m67(+1.7)	7.2
2	栗田徹士(1年)	6m30(+0.2)	10.1
3	廣瀬彬(6年)	6m15	9.3
4	沢登良馬(2年)	6m07	9.3
5	早川頌(1年)	6m06(+0.5)	7.24

男子 三段跳

1	廣瀬彬(6年)	13m99(+0.1)	10.1
2	高木海平(4年)	13m54(-1.4)	10.1
3	沢登良馬(2年)	12m74(+1.7)	7.24

男子 砲丸投

1	佐々木駿(3年)	10m39	5.28
2	片山卓也(3年)	10m27	9.3
3	原湖楠(5年)	10m03	10.1
4	三本恭也(1年)	7m63	9.3

男子 円盤投

1	佐々木駿(3年)	43m29	7.24
2	片山卓也(3年)	33m52	4.30
3	原湖楠(5年)	31m70	10.1
4	三本恭也(1年)	22m54	9.3

男子 ハンマー投

1	千葉伸宏(5年)	32m87	5.15
2	今村昌平(3年)	32m11	10.1
3	佐々木駿(3年)	31m17	10.1
4	三本恭也(1年)	20m52	10.1

男子 やり投

1	佐々木駿(3年)	48m04	9.3
2	千葉伸宏(5年)	46m90	4.2
3	原湖楠(5年)	44m85	10.1
4	上野隆治(1年)	43m58	10.1
5	山東誉英(3年)	39m72	4.3

女子 100m

1	鈴木理香(3年)	13"67(-1.0)	9.3
2	久保木結(3年)	13"91(+0.6)	7.24
3	納朋子(1年)	14"21(+1.0)	7.2

女子 400m

1	鈴木彩夏(2年)	1'04"50	9.3
2	今須宏美(1年)	1'05"97	7.24
3	浜松由莉(3年)	1'10"37	9.3

女子 800m

1	浜松由莉(3年)	2'23"16	5.28
2	今須宏美(1年)	2'24"36	7.24

女子 1500m

1	浜松由莉(3年)	4'52"00	6.11
2	杉本南(2年)	5'19"14	4.2
3	立岡美夏子(3年)	5'21"68	4.2
4	杉浦奈実(3年)	5'22"55	4.2
5	鈴木恵美里(4年)	6'03"15	7.2

女子 3000m

1	浜松由莉(3年)	10'49"80	5.28
2	杉本南(2年)	10'53"67	4.30
3	杉浦奈実(3年)	10'59"68	7.2
4	立岡美夏子(2年)	11'58"83	5.28

女子 100mH

1	久保木結	16"59	7.17
---	------	-------	------

女子 走高跳

1	丹家里枝(3年)	1m53	7.2
2	久保木結(3年)	1m35	7.24

女子 走幅跳

1	武田有希子(2年)	4m43(+0.0)	10.1
2	丹家里枝(3年)	3m95(-1.3)	7.2
3	浜松由利(3年)	3m61(+0.0)	9.3
4	杉本南(2年)	3m61(-1.3)	9.3

女子 砲丸投

1	武田有希子(2年)	9m88	7.24
2	今須宏美(1年)	6m03	10.1
3	鈴木恵美里(4年)	5m36	10.1

女子 円盤投

1	武田有希子(2年)	31m41	4.2
---	-----------	-------	-----

女子 やり投

1	武田有希子(2年)	23m37	5.28
---	-----------	-------	------

8 主務より

主務より5点ございます。

8.1 応援OB・OG紹介

9月25日(日)、千葉印西市にて行われました関東女子駅伝に際し、応援に駆けつけて下さったOB・OGの皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略)

1959年卒 柴田嘉之

1966年卒 村田歆吾

1994年卒 工藤麻衣子

2010年卒 坂井啓一
2010年卒 横田祥
2011年卒 堀越彩香

10月1日(土)、東京大学駒場陸上競技場にて行われました京大戦に際し、応援に駆けつけて下さったOB・OGの皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略)

2011年卒 定金駿介
2011年卒 増本健太郎
2010年卒 山崎貴裕
2010年卒 景山瑞貴
2009年卒 松本光一
2009年卒 武安光太郎
2009年卒 千徳恒憲
2009年卒 梶井駿介
2009年卒 金尾太郎
2008年卒 小澤聡
2008年卒 山本卓典
2005年卒 春木洋輔
2004年卒 田坂和彦
2003年卒 相原佑康
2003年卒 高梨幹生
2001年卒 岡野浩行
2000年卒 渡辺国広
1994年卒 工藤麻衣子
1994年卒 神田潤一
1993年卒 桜井亮太
1992年卒 松浦幹太
1991年卒 小野満
1991年卒 馬場勝也
1988年卒 寺田秋夫
1985年卒 石川淳
1984年卒 渡辺吏
1984年卒 半田禎
1983年卒 景山太郎
1982年卒 室城信之
1982年卒 柳沢健彦
1981年卒 野田晴彦
1979年卒 中谷敬二
1979年卒 早道信宏
1976年卒 田上静之
1975年卒 小手川強二
1974年卒 辻本誠
1973年卒 横田逸郎
1970年卒 横坂敏彦
1969年卒 森茂雄

1968年卒 湯浅味代士
1968年卒 小林寛道
1968年卒 倉田喜弘
1967年卒 林義之
1966年卒 上田裕一
1966年卒 村田歆吾
1966年卒 土谷喬
1965年卒 細越峻
1965年卒 石堂怜
1965年卒 由井浩
1965年卒 渡部一之
1964年卒 八島秀雄
1963年卒 興津誠
1963年卒 篠原健
1963年卒 浅野勝己
1962年卒 相馬光之
1961年卒 宮下国生
1960年卒 笹治峻
1959年卒 奥山彰宏
1959年卒 柴崎嘉之
1957年卒 西尾弘二
1957年卒 藤田宏明
1952年卒 澤島政行

また、10月15日(土)、昭和記念公園にて行われました箱根駅伝予選会に際し、応援に駆けつけて下さったOB・OGの皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略)

1957年卒 古寺博
1982年卒 中山亨
1984年卒 渡辺吏
1991年卒 小野満
1994年卒 工藤麻衣子
2001年卒 近藤航介
2001年卒 中台慎二
2001年卒 新妻拓弥
2003年卒 相原佑康
2003年卒 高梨幹生
2004年卒 田坂和彦
2007年卒 片岡哲朗
2009年卒 梶井駿介
2009年卒 加藤宏平
2009年卒 小福田大輔
2009年卒 松本光一
2010年卒 石川恭平
2010年卒 西川鋭
2010年卒 野村圭吾

2010年卒 横田祥
2011年卒 赤木裕
2011年卒 近藤堯之
2011年卒 中村彰吾
2011年卒 宮城和明

ご多忙の中お越し下さいましたことに、現役部員一同、心より御礼申し上げます。

8.2 行事予定

- 第14回東大競技会
11/5(土)・6(日) 駒場グラウンド
- 第73回奥多摩溪谷駅伝競走大会
12/4(日) 奥多摩溪谷コース

8.3 学生幹事の交代

学生幹事の交代をお知らせいたします。

- 主将 春日慶輝 佐々木駿
- 主務 東大貴 渡邊駿
- 女子主将 鈴木恵美里 久保木結

8.4 連絡先(慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL : 03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail : seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:渡邊駿

〒116-0012

東京都荒川区東尾久 2-49-10 ボヌール 303

TEL : 090-7825-9011

E-mail : shumu@uttff.org

8.5 その他

・この部便りは下記 web ページでもご覧になれます。

<http://www.uttff.org>

・部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務までご連絡下さい。

・また、現在陸上運動倶楽部のメーリングリスト「uttffclub」にて、大会結果の速報および部便りのメール送付を行っております。メーリングリストへの登録をご希望の方は、お手数ですが学生主務までご連絡下さい。

以上です。今後ともご指導ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

主務 渡邊駿

9 編集担当より

シーズン終了に伴い、「部便り」編集担当も代替わりとなります。この部便りは LaTeX という組版ソフトを用いて作られております。当初はコマンドに慣れておらず無駄に時間を浪費していました。また、記録の収集・整序といった一般的な業務においても、1年間不手際の連続と作業の遅延が甚だしいものでした。しかし、優秀な同輩・後輩に支えられ、何とか締め切りを破ることなく仕事を終えることができました。発送終了後にタイプミスに気づくこともありましたが、OBの皆様には辛抱強く読んで頂き、どう御礼を申してよいかわかりません。今回部便り主任をさせていただいたことにより、陸上運動部は本当にたくさんの人の手によって支えられていることを実感できました。本当に、お世話になりました。

来年の部便り主任の谷口をどうかよろしく申し上げます。

末筆ながら、今後の陸上運動部・倶楽部の益々のご清栄を祈念致しまして、結びの挨拶とさせていただきます。

文責：部便り主任 池田剛志